



Japan Translation Federation

# 日本翻訳ジャーナル

社団法人日本翻訳連盟機関誌

2004年3月/4月号

## - 目次 -

### Report

英訳 吉田松陰「留魂録」.....	1
羽ばたけ日本翻訳連盟.....	2
翻訳者の息抜き.....	3
「お助けマン」について.....	4

### Honrenso

No.86.....	5
No.87.....	6

### Information

JTF 翻訳環境研究会報告.....	8
翻訳支援ツール委員会レポート...	10
PR 関連翻訳をニッチとして.....	12
News.....	13
法人会員プロフィール.....	14
個人会員プロフィール.....	15
JTF ニューフェイス.....	16
理事会だより.....	16

## 英訳 吉田松陰「留魂録」

JTF 個人会員 河辺 俊彦

畏友高梨正伸氏(連盟会員)より、表題のような珍しい訳本をご恵贈いただいた。「留魂録」とは、吉田松陰が安政の大獄で処刑される前日に書き上げた遺書である。これを紺野大介氏とおっしゃる方が英訳され、高梨氏が英語の専門家としてお手伝いされたと伺っている。

プロフィールによれば、訳者は1945年奉天(瀋陽)生まれのエンジニアである。

戦後生まれといってよい訳者が、戦中を引きずっている我々でさえ忘れかけていた幕末の志士に関心を寄せておられたのは驚きであった。

まして、生粋のエンジニアが松陰の文章を読み込んだ上で英語に訳すのは、高梨氏のサポートがあったにしても、また紺野氏ご自身が国際的に活躍されている知識人であることを考えても、大変な事業であったと思う。文系のわたしが技術文書を訳すのとは、また違ったご苦労であろう。戦後生まれといったが、1945年の奉天での誕生と日本への帰国に、語りつくせない戦争の影があったことは想像に難くない。訳者はこの前に橋本佐内の「啓発録」という本も英訳されているが、高梨氏の話によると、訳者はこの橋本佐内の縁につながる方とのことで、この選択にもある程度納得がいった。二つの訳書は海外でも反響を呼び、幕末の精神を伝える書として、クリントン元大統領やケンブリッジ大学総長からも感謝状が届いたとのことである。

日本の国威の低下、心の荒廃は、目を被わんばかりだが、「留魂録」の訳者は

前書きで日本人の「民度」の低落が、その原因であると指摘されている。「民度」の詳しい説明は省くが、一言で表せば国民の意識の高さであろう。一国の中だけで完結するものではなく、国際社会との関わり合いの中で磨かれるものだと思う。その意味でも日本人の精神を海外に発信する道として、翻訳に期待される役割は小さくないはずだ。また経済力だけで民度が維持できないことは今や明らかになった。要するに、国内の経済成長だけを目標にして、それ以外のことには頑なに目をそむけてきた日本のシステムが問われているのだ。これに対処するには、松陰の生きた時代が求めた以上に、高い志を持った人間が求められているし、そのような志を育てるシステムが求められている。

「留魂録」の内容に触れる紙幅はなかったが、産業翻訳という名の下に、不向きな題材も与えられるままに引き受けて20年近く経つ個人翻訳者が、「留魂録」の英訳を拝見して、こういう翻訳もあったのだと感じ入っていることをお伝えしたかった。そのインパクトは鮮烈である。気持ちを新たに翻訳を見直さなければならないと考えているので、連盟にも時代の変化に合った対応と、個人翻訳者の一層のサポートをお願いしたい。

社団法人日本翻訳連盟

〒104-0032

東京都中央区八丁堀2-8-1 牧野ビル3F

TEL 03-3555-6365

FAX 03-3552-1784

発行人 勝田 美保子(会長)

編集人 野上 員生

印刷 創栄印刷工業株式会社

E-mail info@jtf.jp

URL http://www.jtf.jp/

## 羽ばたけ日本翻訳連盟

JTF 事務局長 中野 善之

私が日本翻訳連盟のお世話になり、事務局で働くようになってからはや4年が経過いたしました。普通の会社（民間企業）のサラリーマンだった私がいわゆる公益法人に入社し、最初は非常に戸惑いました。役員（会長、副会長、専務理事、理事、監事）はすべて非常勤であり、会社の社員に相当するのは会員ですべて非常勤です。有形のものは事務局と事務局員だけで、事業はすべて役員と会員で構成される委員会企画・運営していく。事務局は会員管理と各事業の具体化および実現にかかわる種々雑多の実務を行う。言い換えれば、会員によるボランティア活動といえます。

日本翻訳連盟は平成2年（1990年）に経済産業省に許可された社団法人になってから、本年9月で14年を迎えることとなります。会員の皆様の長年にわたるご協力・ご努力により下記事業活動もようやく軌道に乗ってきたと考えます。会員数も約400人を数え団体としての骨格がようやく整備されてきたと自他共に認めるところです。

- ・翻訳環境研究会の開催（年10回）
- ・西日本セミナーの開催（年5回）
- ・<ほんやく検定>の実施（年2回）
- ・日本翻訳ジャーナルの発行（年6回）
- ・翻訳祭の開催（年1回）
- ・ホームページによる情報提供（随時）

さらに翻訳支援ツール委員会、トラブル解決委員会、業界調査委員会等も発足し、積極的に活動を行っており、今後の成果が期待されております。

このような背景より、経済産業省とも情報交換を頻繁に行い、平成16年度は初心に帰って、公益法人・社団法人の趣旨・目的を再確認し、業界および世の中の期待に応えられるような事業計画を立案し、実行していくことが確認されております。

公益法人とは一般に、民法第34条に基づいて設立される社団法人又は財団法人を指し、その設立には、

公益に関する事業を行うこと  
（解釈）積極的に不特定多数の者の利益を実現することを目的として事業を行うこと

営利を目的としないこと、  
（解釈）役職員、会員、寄付者等公益法人関係者に利益を分配したり、財産を還元することを主たる目的とする事業を行わない

主務官庁の許可を得ることが必要です。  
（解釈）設立に当たって、その法人の目的に関連する事務を所掌している官庁の許可を得る必要がある

社団法人は、一定の目的のもとに結合した人の集合体であり、団体として組織、意思等を持ち、社員は別個の社会的存在

として団体の名において行動する団体である。社団法人には社員が存在し、その会費をもって、総会の決定に基づいて運営される。

と定められております。しかし、社団法人において会費のみで事業を行うことは困難となってきたことも明白な事実です。

平成16年度は既定の事業に加えて、次の事業を展開していくことが確認ならびに期待されております。

1. 愛知万博への協力
2. 本格的な業界調査の実施
3. 業界の標準化（各種ガイドラインの作成）
4. <ほんやく検定>に関わる事業範囲の拡大
5. ホームページを活用した会員相互（特に法人/個人）の積極的な情報交換

会員皆様には当連盟の事業活動について、更なるご理解と積極的なご参加をこの紙面をお借りして、事務局からもよろしくお願いいたします。



IT時代をリードする  
マニュアルから  
ウェブページ翻訳まで

例えばこんな技術を持つ人を歓迎します。

- ・テレコミュニケーション
- ・ネットワーク
- ・マニファクチャリング

Knowledge Wing

和文英訳在宅翻訳者 募集

株式会社富士通ラーニングメディア

〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-37-10(蒲田グリーンビル)  
ドキュメントサービス部 宛  
TEL: 03-3730-4396 FAX: 03-3730-3702  
Eメール: qa-trans@flm.co.jp  
URL: http://www.flm.fujitsu.com

## 翻訳者の息抜き

個人翻訳者 小箱 光正

1月/2月号に寄稿した「翻訳者の子育て」という拙文に書いたが、今の私にとって一番の楽しみは、1歳になる末っ子の育児である。子育ての経験がおありの方なら分かると思うが、小さい子供からは一瞬たりとも目を離すことができない。ちょっとした油断が悲しい事故につながった例はいくらでもあるし、日常レベルの話でも大変なことをしでかしてばかりだ。たとえば先日の話。やっと翻訳が終わり、見直しも済んで納品だというときに電話が鳴った。ほんの10秒ほど席を離れたすきに、最後の段落が判読不明の文字列に書き換えられていた。末っ子を叱ったが、満面の笑顔で「だぁ」と返されただけだった。こんな末っ子を、米国人の友人に He is a professional mess maker. と紹介したところ、深く頷かれたことがある。この子を育てるのは無上の喜びではあるが、やはりストレスも溜まる。夕食の席で「君は会社に行ってしまうれば楽だから羨ましいよ」などと妻に愚痴をこぼすようになったら、そろそろ赤信号である。こういうときはやはり息抜きが必要だ。

とは言い、私は絵に描いたような無趣味人間である。かつては音楽、フィットネス、ペット飼育など、さまざまな趣味に手を出していたが、2人目の子供が生まれた頃から少しずつ縁遠くなった。今でもスポーツクラブには通っているが、健康維持のためであり（最近では「死なないため」という洒落にならない文字列もちらほらと頭をよぎる）誰とも喋らずに黙々と筋力トレーニングや水泳をこなすだけなので、趣味とは言えまい。酒もほとんど

呑まなくなった。20代は每晚1升近く呑んでいたのに、肝機能が低下したのかと心配したが、先日受けた人間ドッグではどこも異常なしだった。たぶん、すでに人生の酒飽和量に達したのだろう。博打の類は一切やらないし、もちろん“買う”など論外である。

こんな私が唯一の息抜きとしているのが映画観賞である。近所にシネコンがあるので、末っ子が生まれるまでは月に1、2回は映画を観に行っていた。連れも伴わずに映画を観に行くなんて、まるで一人でパーベキューをやるようなものと揶揄する輩もいるが、誰も気にすることなく映画に没頭できるし、終わった後につまらない素人評を聞かなくて済むのがいい。末っ子の育児を引き受けるようになってからは、休日に上の子たちを連れてアニメやディズニー映画を観に行くだけになっていたが（それでも最近の『クレヨンしんちゃん』などは大人が観ても面白い）ストレスが溜まっている私を見かねたのか、妻が日曜日の午前中は子供を預かるから映画を観に行けと言いつつ、

日曜日はみな朝寝坊なので、早く起きて朝食の準備や洗濯などを済ませたら、子供に気付かれる前に家を出る。途中のファミレスなどで朝食を済ませ、早めにシネコンに着いてチケットを買い、コーヒーなど啜りながら上映開始までの時間を過ごす。日曜日とは言え、朝の9時から映画を見る人は少ないので、良い席でゆったりと観賞できるのが嬉しい。観るモノを選ぶ際には、映画評論家のおすぎの意見を参考にしている。彼（女？）の評

価はたいがい当を得ているので、おすぎが五つ星を付けた映画は（ラブストーリー以外なら）絶対に観るようにしている。最近では『シービスケット』と『ミスティックリバー』が最高だった。

映画は子供の頃から星の数ほど観ているので、感動への耐性ができてしまったのか、最近ではほとんど泣けなくなった。ストーリー展開を読んだり、演出のアラを探したりと、一歩引いて冷静に映画を観てしまうのである。「汚れっちまった悲しみに」と言ったところか。そういうときは昔の作品がいい。脚本や演出が多少荒くても、古い作品だからと許せてしまうし、何より、今では恥ずかしいくらいの直球勝負の作りに何とも言えない味がある。先日、レンタルビデオ屋で見つけた『世界大戦争』（昭和36年の東宝映画）を観たら、ラストで不覚にも大泣きしてしまった。だが、たとえ身体が震えるほどの感動が得られなくても、やはり映画を観に行くということは大きなストレス解消になる。育児から解放されて頭を空っぽにできるからだ。

上に名を挙げた『シービスケット』と『ミスティックリバー』は、久しぶりに泣けた映画だった。しかし、どちらも家族愛が根底に描かれていたせいか、観終わった後、すぐに子供たちに会いたくなくなってしまった。車に乗り込んで自宅に電話を入ると、父親が居ないことに気付いた子供たちが騒いでいると言う。電話口に出た上の子たちからはおみやげをせがまれた。こうして午前中だけ非日常に浸った私は、また日常へと帰っていく。

LDS の翻訳者は、マニュアルからローカライズ用そして書籍や専門誌の翻訳まで幅広くカバーしながら、その高い品質によって顧客の絶対的な信頼を得ています。翻訳の第一線で活躍する2人のLDS翻訳者が、新鮮な素材を使って、オンラインでお教えます。顧客に評価される翻訳技術を身につけてください。

■ オンライン講座「IT 書籍を翻訳する」

次回申込みは 2004 年 3 月 1 日～

■ オンライン講座「実践ローカライズ講座」



4 月 10 日 前期開講予定

お問い合わせは … 03-5454-2531 詳細ならびにお申し込みは … <http://www.lds.co.jp/School/>

LDS

株式会社 ランゲージ ドキュメンテーション サービス  
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-20-16 PRODUCE ONE 4F

LDS オンライン講座事務局

## 「お助けマン」について

JTF 個人会員 吉川 潔 (新潟の田舎で生活するホンヤク屋)

昨年(2003年)の日本翻訳ジャーナル9/10月号の最終頁の末尾に、「お助けマン」制度の提案が理事会で却下されたという記事を、皆様は読まれたでしょうか。これは、昨年の6月の総会に私が提案しました。翻訳者の立場で助かることは、困った時の「お助けマン」の存在です。例えば、文法や難解表現に困る場合があります。そういう際にJTFに問い合わせると、「お助けマン」に連絡し助言を受けると助かります。「お助けマン」は、日本語を読める米国人になるでしょう。ITやバイオに詳しい人の存在も助かります。当然、授業料を払うことにします。こんな扶助制度があると助かります。

その必要性は翻訳会社にもあると思います。私は特許事務所やメーカーから英訳を承っています。日本語原文に誤字脱字があり修飾関係も不鮮明の場合があります。それらを解明して英訳しなければなりません。そのための背景知識が必要になります。翻訳会社に発注しても解明が不十分らしいです。翻訳会社に不満を持つ場合があります。技術問題を検討する要員がいるのは数社だけです。有力な特許事務所やメーカーは、内部で翻訳者を養成したり、翻訳部を別会社にして、常駐者や外注翻訳者を募集しています。それらの退職者が独立して専属になるケースもあります。

10年前にトヨタの系列会社が外注翻訳者を募集していました。日本語原文の欠陥を指摘して英訳せよという課題がありました。エンジンの知識が不可欠で応募を諦めました。

入試問題のミスがマスコミの話題になりますが、翻訳原文にミスがあることを

発注者が認めています。

海外出張を得意とする特許事務所や企業には、海外出張し、顧客や国益のために流暢に英語を話す人がいます。翻訳品質基準は、その人の御機嫌一つです。日本語原文に文句を言うと、甘ったれ、翻訳営業が日参しているのだぞと一蹴されました。兼業や副業も厳禁で、専業が要求されます。深い背景知識を有して対応すべきですが、一人の能力に限度があります。そういう趣旨で、業界としての「お助けマン制度」を提案しました。

15年前のバブルピーク時に、月に最高で300万円、年収が2千万円を超える人の英訳文を見ました。平易で私も可能と錯覚しました。次に原文を見て驚きました。悪文で、作成者に質問しないと無理と思いました。その高額翻訳者は質問無しに英訳するのだそうです。深い技術知識が無ければ無理です。1ワード30円で依頼していたが、増額を要求してきたので困った。君を指導するから頑張れと言われました。時々上京し指導を受け、低単価で一旦奪取しました。しかし、前述の数社の一つが優秀な要員を誇示し横取りされました。気の毒だが、管理的に一括発注となった。他で頑張れと言われました。

ある大会社に行きました。受付で翻訳営業は断るよう指示されていると言われました。それで諦めるヤワではありません。新潟から来たのだと懇願しました。担当者が現れ「佐渡に毎年行くのですよ」と話がはずみ、社内翻訳分の割込に成功しました。地方がプラスになる場合もあるのです。

通訳が辞書を片手じゃサマになりませんが、翻訳は自由です。自動翻訳ソフト、

インターネットのグーグル(類似文が豊富) 用例辞典や百科事典のCD-ROMを並行使用しています。支援ツールの進歩は驚きです。まだ単独使用では不満ですが、組み合わせると有用です。会社名や商品名のスペルを適当に訳したら、顧客からホームページを見たのと叱責されました。これからは使い方も重要になるでしょう。

私ごときが業界全体を見渡せるわけがありませんが、英語力だけでなく背景知識も必須です。そこに発注者は留意します。需要増加が見込まれる分野の知識を吸収すべきです。20年前に、英文卒にしては電気に詳しい姐御のような翻訳者がいました。秋葉原に外人客の通訳として勤め覚えたそうです。JTFが、翻訳祭にITやバイオの講師を招くと参考になります。東大教授が東大生に対するように講演すると、聴衆の多くは昼寝します。昨年のように、初心者の疑問点を予め送ると分かりやすく語れるでしょう。

高齢者は新技術の理解は苦手ですが、人脈は豊富です。そこから「お助けマン」を探し、いざという場合に助言を求める準備を個人でもすべきです。私は、20年前にSOHO翻訳を始めた時から、日本語の得意なnativeにファクスで相談していました。また、ITメーカーの技術者にも問い合わせさせていました。その人達の存在が無ければ、途中で潰れていたでしょう。ほんとうに感謝しています。

翻訳需要が多い分野は、翻訳を業にする者にとって宝の山です。翻訳支援ツールに習熟し「お助けマン」を確保し、営業的にアピールすれば宝の山に当たるかも!!!

## 特許英和講座

特許翻訳の第一歩は良い英文明細書を翻訳すること  
実際の英文明細書を用いた演習  
特許翻訳環境や実務への導入も講義  
英訳への応用も視野においた授業構成

講師 佐藤 亜古 氏 (フリーランス翻訳者)  
受講料 8回分一括 お一人様 100,000円 (消費税・テキスト代込)  
\*JTF会員の方は5%割引となります

会場 (株)知財翻訳研究所 知財アカデミー事務局 (担当・平田)  
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-1-7 コスモ新宿御苑ビル  
TEL03-3225-1931 FAX03-3225-1933 e-mail academy@chizai.co.jp

【日程】 2004年3月27日から5月22日までの5月1日を除く連続土曜日(全8日)

【時間】 13:30-16:30

【内容】 特許明細書概説、特許翻訳に役立つ資料(日本語)の紹介、特許翻訳に役立つCD-ROMおよび関連ツール、特許翻訳に役立つサーチの仕方、関連ホームページおよびツール、特許翻訳に役立つ外国語文献の紹介、特にクレーム翻訳に役立つ文献の紹介、慣例的な表現の解説、その他

【定員】20名(原則先着順)



●詳細は  
株式会社知財翻訳研究所  
www.chizai.co.jp

# ほんれんそう No.86

翻訳とは何か 翻訳における等価性(2) 高崎 栄一郎

## 言語の3機能

翻訳者が扱う文書の種類は多岐にわたりますが、言語の機能という見地から文書の特徴を見きわめることができます。言語の基本的機能は以下の3つです(K. Bühler, 1934)。

- (a) 表出機能 (expressive function) 発信者の感情・意図などを表出する
- (b) 叙述機能 (representational function) 対象・事態を叙述する
- (c) 訴求機能 (appealing function) 受信者に訴える

日常会話においては、これらの機能はしばしば混合した形で発揮されます。一般的に言えることは、情報を正確に伝えることが重要な科学技術文では、「叙述機能」が核心です。レターなどのビジネス文書では、読み手に納得してもらい、同意してもらうことが重要なので、「叙述機能」と並んで「訴求機能」も大切です。「表出機能」は、典型的には文学作品で発揮されます。日常会話とは違って、文書を書く場合、言語の3機能を意識して文を組み立てるべきだと思います。

テクニカル・コミュニケーションの分野では、少し視点を変えて、事実の議論(argument of fact)とポリシーの議論(argument of policy)を区別することが重要だとされています。端的に言うと、事実を議論する場合は、ポリシーの議論を交えてはならず、ポリシーの議論を展開するためには、まず裏づけとなる事実の議論を固める必要があります。翻訳においても、原稿のどの部分が事実の議論であり、どの部分がポリシーの議論であるかを見きわめるべきでしょう。

ところで、前号で引用したR. ヤコブソンは、ここで紹介した3機能に、以下の3機能を加えて、6機能を提唱しました(Roman Jakobson, 1960)。(4) 交話的機能(phatic function) 例: あいさつ・相づち、(5) メタ言語的機能(metalinguistic function) 例: 単語自体の説明、(6) 詩的機能(poetic function): 表現方法そのものを際立たせ、言い回し自体に注意を向けさせる働き。この詩的機能は、詩歌だけでなく散文においても見ることができます。

## 翻訳者は「裏切り者」か?

イタリアには「翻訳者は裏切り者である」(Traduttore, traditore)という警句があるそうです。翻訳者には聞き捨てならない非難や皮肉に聞こえるかもしれませんが、翻訳者は原文の内容を忠実に伝えることはできず、不本意ながら原著者の意を裏切ってしまう、という意味に解釈しましょう。テキスト(センテンスよりも大きな言語単位)には、知的言語と情的言語があります。情的言語、とくに詩においては、原文のこぼを完璧に翻訳することは不可能だとされています。詩の読者は、その詩を形づくっていることばの意味だけではなく、ことばのもつ音や響きやリズムも味わいますが、音やリズムを他の言語に翻訳することは不可能です。情的言語の中の散文においても、やはり「裏切り」は避けられません。歴史、文化、習慣、生活様式が違えば、もの

の見方や考え方も違ってくるために、単語や表現そのものが、言語によって違っているからです。

原文を忠実に翻訳できるかどうかは、原文と翻訳文の等価性を達成できるかどうかという議論として考えることができます。情的言語の翻訳、とくに詩の翻訳の場合、完全な等価性を得ることは不可能であることが多いといえるでしょう。しかし知的言語の場合は、等価性を達成できる場合が少なくありません。たとえばそれぞれの専門分野の文書は、言語の壁を越えて共通の内容を、共通の論理で、原則的に同じ意味を持つ専門用語を多く使って表現するものですから、技術翻訳者が「裏切り」感に苦しむことはあまりないといえます。

「裏切り」と同じような問題は、翻訳不可能論としても議論されてきました。翻訳不可能の要因は、語彙や言語構造の違いと、文化的な違いにあります。これらを含めた完全な等価性を求めるならば、翻訳は不可能であるという議論が成立するでしょう。しかし厳密な等価性を求めるのではなく、もっとゆるやかな等価性でもやむをえないと考えるならば、翻訳は不可能ではなく、可能になります。

インターネットに掲載された「翻訳者は裏切り者」についてのコメントの一部を引用して、この節を終わりにします。『翻訳者が心せねばならぬことがある。程度はともあれ「裏切り」が避けられないとすれば、なおのこと謙虚でなければならない、ということだ。それに、翻訳者は自己の存在を - できるものなら完全に - 消し去る必要がある。語るのはあくまで原著者であって、訳者ではないからだ。』

## 表層構造と深層構造

前号で紹介したナイダの翻訳理論は、チョムスキー(Noam Chomsky 1928-)の変形生成文法(transformational generative grammar)によって提唱された深層構造(deep structure)と表層構造(surface structure)の理論を応用していると言われていきます。つまり翻訳者は、原文に書かれた表層構造を分析して、文の根底に潜在している「深層構造」の基本的な要素に還元します。その基本的な要素を、翻訳プロセスの中で目標言語に転移し、目標言語の表層構造、すなわち翻訳文に「生成」という理論です。

表層構造とは、現実の文に近いところまで整えられた構造です。深層構造は、現実の文の裏または奥に潜在している原型的な構造です。ナイダの理論は、見方によれば翻訳の本質に触れるものであり、翻訳のプロセスを説明する考え方もありません。しかしチョムスキーの理論体系は「標準理論」(1965)以来、拡大・修正とともに変わってきています。深層構造と表層構造の理論を翻訳に適用するという試みはあまりにも大胆なので、ここで筆をおいて、さらに勉強した上で、次号において検討を進めたいと思います。

(高崎 栄一郎: 日本大学非常勤講師、JTF 専務理事)

# ほんれんそう

No.87

私の翻訳体験から(1): リライトの例 松下 巖

私が翻訳の仕事をするようになったのは、1977年技術部門から新設の子会社の翻訳部門に移ってからです。最初は、和文英訳が中心でしたが、次第に英文和訳が多くなり、現在は英文から和訳したマニュアルのリライトをしております。この間に経験した翻訳・リライトの中から、参考になると思われるものを紹介しません。

## リライトについて

リライトは、良い訳文を作成するには不可欠です。特に、日本人が翻訳した英文は、英語のネイティブ・スピーカーがリライトしないと、きちんとした英文にならないものが多いようです。これに対して、日本人が翻訳した和文は、問題ないと思われませんが、実際は、英語の原文の影響を受けた不自然な日本語になっている場合があります。きちんとした和文にするには、英語の原文を読まずにリライトすることが必要です。

ここでは、英文と和文のリライト例を一つずつ紹介します。

### 「standpoint」を「standpoints」に

ネイティブ・スピーカーによるリライトでは、日本人が不得意とされる冠詞、前置詞を直されることが多いのですが、ここでは、それ以外の修正について述べます。

私が翻訳を始めた頃の英文と、ネイティブ・スピーカーによるリライトを示します。下線を付けた箇所が修正された部分です。

The digitization of Japanese radio-relay circuits is being promoted positively from the standpoint of the radio frequency economy, frequency sharing between systems in the fixed satellite services and terrestrial radio services, and the demand of future various non-telephone services.

Digitization of Japanese radio-relay circuits is being promoted aggressively from the standpoints of radio frequency economy, frequency sharing between systems in the fixed satellite services and terrestrial radio services, and the demand for various non-telephone services in the future.

このリライトには、注目すべき修正が二つあります。

一つは「positively」から「aggressively」への修正です。現在は多くの英文を読んだ結果、「aggressive(ly)」がよく使われることを知っていますが、当時は知りませんでした。この単語には、「積極的(に)」という良い意味と、「攻撃的な、侵略的な」という悪い意味があるので、使用するときには注意が必要です。この区別を明記している辞書もあります。

もう一つは「standpoint」を「standpoints」へと複数形にした修正です。辞書の例文および「普通は単数形で」と注記する辞書があるため、単数形を使うもの思い込んでいましたが、立場、見地が複数なら複数形になるという当然のことを教えられました。

複数形を使用した例文を載せている辞書とその例文を示します。

- ・『ライトハウス英和辞典』(初版): We can consider the problem from several standpoints. その問題はいくつかの立場から考えることができる。
- ・『新編英和活用大辞典』: illustrate the same principle from different standpoints 異なった見地から同一の原理を説明する
- ・『Longman Language Activator』: The standpoints of historians and politicians are often completely different.

これから、辞書が必ずしも実際に使用されている状況をすべて反映しているわけではないことが分かります。

英文への翻訳には、ネイティブ・スピーカーの目が必要だということを感じた次第です。

## 翻訳に関わる人のためのメールマガジン

# Tra-maga

Translation Mail Magazine

翻訳の専門校フェロー・アカデミーが、月2回配信するメールマガジン「Tra-maga」。翻訳業界で活躍する方々へのインタビューや、フェローの受講生・講師の翻訳作品紹介、プレゼントなど、毎回盛りだくさんの内容でお届けします。登録はフェロー・アカデミーのホームページから。

登録は無料!

<http://www.fellow-academy.com>

創立29年翻訳の専門校

フェロー・アカデミー

お問い合わせはフリーダイヤルかE-mailで

E-mail: info@fellow-academy.com

〒107-8520 東京都港区赤坂 8-5-6 翻訳会館(地下鉄「青山一丁目」駅より徒歩3分)



0120-024240

【受付時間: 平日9~21時 / 土曜9~17時】



## 「ファイルへ保存」を「ファイルに保存」に

和文のリライト例では、助詞の修正を取り上げます。

CCCを作成してファイルへ保存します。

という文には違和感を覚えます。この違和感は、保存する場所を表わすのに助詞「へ」が使用されているからです。すんなりと読める和文にするには、「へ」を「に」に変えて、「ファイルに保存します」とする必要があると。

実際は、場所を表わすのに、「に」と「へ」が同じように使われています。この二つは同じでしょうか、違うのでしょうか。

この疑問に対して、大野晋氏は『日本語の教室』(岩波新書 800、2002年)で次のように述べています。

ある日勤め先から東急の電車に乗って帰る途中、私は阿川弘之さんと乗り合わせました。(中略)話を交わしていると、「僕は今日は朝から「東京へ行く」とするか、「東京に行く」とするかで、ずっと迷っていたんですよ」とのこと。確かに「へ」と「に」とは同じように使うことがあります。私は以前「へ」と「に」の使い方の違いを調べてみたことがありました。そこで私は知っていることをかいつまんで言葉にしました。

この後に、『万葉集』の使用例を引用して、「へ」は「遠い所に向かって移動する」ときに使い、「に」は「結果として確かな地点や場所に止まって動かない」という意味に使うことが多いことを示し、次のようにまとめてあります(原文の傍点「。」を下線で示す)。

いずれにせよ、「へ」と言っても「に」と言っても、通じることは通じます。そこで、「机の上へ置いた」とか、「ノートへ書く」などという言い方が出てきたのです。しかし「置く」「書く」は、そこに落ちつく動作です。だから、「机の上に置く」「ノートに書く」と「に」を使い、

- ・移動・移行の方向のときは「へ」
- ・動作の帰着点をきちんと示したいときには「に」

として使い分けると、聞き手も事態をはっきりと受けとるこ

とができると思います。

これで万事解決するかというと、現実はその甘くはありません。

ムカシ ムカシ、オヂイサン ト オバアサン ガ アリマシタ。オヂイサン ハ ヤマ ヘ シバカリ ニ、 オバアサン ハ カハ ヘ センタク ニ イキマシタ。

これは、八ナハト読本の「モモタラウ」の最初です。ここでは、場所を表わすのに「へ」が使用されています。なぜでしょうか。

この疑問に対しては、佐治圭三氏が『口語文法講座 3 ゆれてゐる文法』(明治書院、昭和39年)の「席につく」と「席へつく」の中に書かれていることが答になっています。

少しでも「移動」の意味を持つ表現なら「へ」を用いることができるところから、「移動」の意味の非常に稀薄なものに「へ」が用いられて、ついには「方向」や「場所」だけを示すようなことになる、いわゆる「ゆれ」の問題が起こってくる。

「ゆれ」というのは、二つの表現のどちらも許容されるということで、大野晋氏も「へ」と言っても「に」と言っても、通じることは通じます」と、認めている現象です。

最初に挙げた文は、「Create a CCC and save it to a file.」の訳です。この場合は「移動」という意味はほとんどないので、「に」を使用するのが適当です。「To move an object from a branch to a folder, or from a folder to a branch, drag the object's icon and drop it on the destination folder or branch icon.」の訳では、「オブジェクトを、ブランチからフォルダへ、またはフォルダからブランチへ移動するには、オブジェクトのアイコンをドラッグして、移動先フォルダまたは移動先ブランチ上でドロップします」というように、「へ」を使用しても不自然な感じはしません。これは、「から」に対して「へ」が呼応するという関係もあるでしょう。

いずれの例も英文では前置詞「to」が使用されています。「移動」という意味があるかないかを考えずに安易に「へ」を当てると、正しい日本語にはなりません。助詞も、名詞や動詞、形容詞と同じように、よく考えて適切なものを選択する必要があります。

サン・フレアグループでは、翻訳学習から翻訳実務まであなたをサポートいたします。

《特許/ローカライズ/医薬》Pre-OJT 受講申込受付中!



翻訳会社(株)サン・フレア  
産業翻訳者募集中!  
TEL:03-3355-1168  
www.sunflare.com/recruit/

翻訳会社(株)サン・フレア  
オンサイト翻訳者  
在宅翻訳者/エディタ

☆ 2004年 3月・4月 翻訳セミナー・講習会 ☆

● 3月13日(土) 10:00 ~ 15:00 (昼休1h) in東京  
『TQE-レベル判定試験』対策セミナー(医学・英学) 濱田京子 先生(13,000円税込)

● 4月24日(土) 10:00 ~ 15:00 (昼休1h) in東京  
文系出身者のための『はじめての化学』セミナー 山口 正晴 先生(13,000円税込)

◆ 『TRADOS 1日講習会』(Translator's Workbench / Tag Editor)  
3月6日(土)・4月17日(土) : 10:00 ~ 16:00 (昼休1h) in東京

サン・フレアアカデミー  
www.sunflare.com/academy/

TEL: 03-3355-2678

東京都新宿区四谷4-7 新宿ヒロセビル2F

＜講師募集＞産業翻訳講座の通学科講師、または添削・教材作成などにあなたの経験を活かしてみませんか?

**JTF 翻訳環境研究会報告**

\*\*\*\*\*

平成 15 年度第 7 回 JTF 翻訳環境研究会  
平成 15 年 12 月 9 日 (火) 14:00~16:40

【開催場所】翻訳会館

【テーマ】作業環境：翻訳支援ツールで高収入を確保

【講師】

第一部：久徳 省三氏

(実務・技術翻訳者)

第二部：貝島 良太氏

(有限会社アトリエ・ワン取締役・

SuperHT<sup>3</sup> 事業部長)

\*\*\*\*\*

第一部：久徳 省三氏

**翻訳支援ツールの種類**

翻訳支援ツールの種類は大きく分けると 4 種類に分類される。1 種類目は機械翻訳 (MT) で、現在約 100 種類のものが存在するといわれる。価格は 5 千円程度のものから 10 万円程度のものまである。安いものは英語のできない人がインターネットを読むためなどに使用するには便利だが翻訳者が利用するには向かない。2 種類目は翻訳メモリ (TM) で、日本で流通しているものでは TRADOS や Transit、SDLX がある他、海外で流通している製品をインターネット経由で購入することも可能である。3 種類目は機械翻訳と翻訳メモリを組み合わせたもので、Logo Vista、Atlas、PC-Transer、The 翻訳などがある。そして 4 種類目は用語・表記管理ツールで、SuperHT<sup>3</sup>、スベルバイザー、シソーラス、誤謬奪狼、校正大臣などがある。これらには日本語のチェック機能のみのものもある。

**機械翻訳の限界**

たとえば“check...for possible mistakes”という表現を直訳すれば「あり

得る間違いを求めて～を調べる」であり、意識をするのであれば「～に間違いがないかを調べる」となる。ところが機械翻訳の場合は、「可能な間違いのため～を調整する」といった訳語になってしまい、翻訳として使用するに耐える訳語を手に入れることはできない。ここに機械翻訳の限界があるだろう。

**機械翻訳・翻訳メモリ使用のコツ**

まずは全文一括翻訳をしないことが重要である。その代わりに訳語を小まめに登録して用語集を作り、一文毎にリライトし登録をすることが大切である。この作業をしておけば、用語を資産として今後の翻訳に活かすことや、類似文があればそのまま翻訳に活かすこともできる。そして素訳が終わったら訳文のみを推敲すると良いだろう。

**機械翻訳・翻訳メモリのメリット**

機械翻訳や翻訳メモリを利用するメリットは、訳語の統一や表記の整合性を図ることができることである。また翻訳分野別にフォルダを作って用語や文を登録すれば串刺し検索ができる他、過去の翻訳資産の利用や、対訳文例集を自動的に作成することもできる。

**翻訳支援ツールとは**

誰でも自分で書いた文書の間違いは何回読み直しても気づかないものである。

まして、納期に追われ睡眠不足の翻訳者は条件が悪い。そこで支援ツールを使用すればボカミスがない翻訳ができると言えるだろう。和訳文推敲用、英訳文推敲用にそれぞれ別の支援ツールを使用している。

**第二部：貝島 良太氏**

用語集超活用ソフト SuperHT<sup>3</sup> 開発の経緯

日立製作所系列のドキュメント会社で翻訳部門を担当していたとき、クライア

ントから用語集を預かってもらっても翻訳者がその用語集を十分に活用しておらず、用語の統一は中途半端であった。また、納品された翻訳原稿の用語チェックも目視に頼らざるを得ず、完璧にはできなかった。このため、用語集を翻訳に完全に活用できるツールの開発が必須になった。そして様々なプロセスを経て幾度も改良を重ねて開発をした SuperHT<sup>3</sup> の特長は、二言語間リバーシブル (一言語だけでも使用可能)、複数の異表記にも対応、辞書は Excel で構築、訳語付与 訳語取り込み 文章中の用語チェックまでできる、良いところ (標準表記) をほめる、等々である。

開発当初、このソフトは専ら技術用語の用語・訳語統一に利用されていたが、一般語を用語集に取り込めば仮名・漢字の使い分けや好ましくない言葉の統制にも十分威力を発揮できることが分かった。

「ください」と「下さい」

「お座りください」のように「クダサイ」が英語の “please” にあたる場合は「ください」と平仮名で書き、「本を下さい」のように「クダサイ」が “give” にあたる言葉の場合は「下さい」と漢字で書くのが正しい表記法だ。このような表記の正誤を識別・修正するために、表記を使い分けるための文法的法則をリストアップし、SuperHT<sup>3</sup> 形式で辞書化することで一般語の正しい表記の識別・修正が可能になった。

正しい個所を教えてくれる

SuperHT<sup>3</sup> は間違っている個所 (異表記部分) はピンク色、正しい個所 (標準表記) は空色でハイライトされる。従来の誤った個所を表示するだけのタイプでは、指摘されなかった部分がすべて正しいかどうかの保証はない。SuperHT<sup>3</sup> のように正しい個所も表示することができれば、チェックの精度はさらに向上する。

<p><b>ソフトウェア関連ドキュメントの</b></p> <p><b>翻訳 翻訳者派遣</b></p> <p>ソフトウェア分野の翻訳に特化しております</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TRADOS翻訳が100%です</li> <li>・英文和訳中心です</li> <li>・派遣先は外資系ソフトウェアメーカーです</li> </ul> <p>新進気鋭の翻訳者を探しています</p> <p><b>ABES (株)エイブス</b></p> <p>http://www.abes.co.jp/</p> <p>〒154-0012 東京都世田谷区駒沢 2-11-1 集花園ビル4F TEL:03-5431-6371 FAX:03-5431-6372 E-mail:hara@abes.co.jp</p>	<p><b>コンピュータ、情報通信、特許の技術翻訳者を養成</b></p> <p>注目の新講座</p> <p>『翻訳者のためのコンピュータ講座』 翻訳に必要なコンピュータ知識を効率的に習得</p> <p>『特許英和演習』 実際の英文特許明細書を和訳演習するコース</p> <p><b>エイブス ABES技術翻訳SCHOOL</b></p> <p>〒154-0012 東京都世田谷区駒沢2-11-3 第二集花園ビル3F TEL:03-5432-4466 FAX:03-5432-4467 E-mail:school@abes-tt-schl.com</p> <p><b>http://www.abes-tt-schl.com/をご覧ください!</b></p>
---	--



\*\*\*\*\*  
 平成 15 年度第 8 回 JTF 翻訳環境研究会  
 平成 16 年 1 月 13 日 (火) 14:00~16:40  
 【開催場所】 翻訳会館  
 【テーマ】 品質改善：新トライアルでミス  
 マッチ解消  
 【講師】 近藤 哲史氏 (伝株式会社)  
 \*\*\*\*\*

翻訳者の皆様に向けて

トライアルの現場で思うことは合格・不合格にはパターンがあり、特に不合格になる人の多くが同じパターンで不合格となっているということである。このため、パターンに気づいた人が合格し、気づかない人がなかなか合格できない。また翻訳学校や翻訳学習書で学ぶことのできる、翻訳の基本の「き」に当たるようなことがしっかりとできていないことから不合格になる人も多い。

不合格になる理由のひとつにコミュニケーション不足が挙げられる。翻訳者は原稿と読者に加えて、翻訳会社とコミュニケーションを図る必要がある。まず原稿とのコミュニケーションでは英語の論理展開やパラグラフの組み立てなどの知識と同時に、背景知識を理解することが大切である。原稿に書かれている分野の基本的な枠組みを基に原稿を読むことができれば良いだろう。次に読者とのコミュニケーションでは論理の展開や背景知識を考えて翻訳をする必要がある。たとえば訳語を「発明」してしまう人を見かけることがあるが、専門の世界の中で行われるコミュニケーションの営みを想像すれば、このようなことは防げるだろう。そして翻訳会社とのコミュニケーションでは最低限のビジネスマナーがあれば良いが、それ以上に仕様書をしっかりと守ることが大切である。翻訳会社で行われる後工程を考えて仕事をすれば、仕様書を

守る大切さがわかるだろう。

翻訳会社の皆様に向けて

トライアル不合格の理由を示すことは簡単だが「どれが良い翻訳であるか」を示すことは難しい。これはトライアルの審査が手作業・主観の世界であるため、どうしても「相性」が出てしまうからである。この問題を解消するためには体系立てた評価基準を作り、翻訳会社同士で基準を共有し合うことが必要である。

こんな人を合格させたい

翻訳者は上手な翻訳を求められているわけではなく、「良い日本語版」を作成することが求められる。このため「どれだけ上手に翻訳をされているのか」ではなく「読みやすい日本語になっているか」が問われる。ドキュメントの世界に入るとその世界の筋が浮かんできたり、勢いとリズムが生まれてきたりする翻訳ができれば良いだろう。

翻訳とは、翻訳をしたものがどこかに置かれているだけでは何の役にも立たず、翻訳されたものを読者が読み、何らかのアクションが達成されて初めて役に立つといえる。このため、早く正確に伝えることができるかどうか重要で、それができて初めてお金をもらうことのできる翻訳となる。

伝株式会社が経験した変化

仕事の難易度が上がり、翻訳ツールのデータ処理等の作業が含まれることも多くなった。そしてスピードアップを実現するためのキャパシティも必要となった。一方で翻訳をするまでの準備期間であるリードタイムはなくなっている。これは外資系企業の場合、日本法人ではスケジュールの調整ができないことに起因するといえる。このため翻訳会社は必要な人材を集めることができるか、また翻訳者はどれだけ早く自分のスケジュールを

埋めることができるかが重要になってくる。

ミスマッチ

ビジネスチャンスを逃がす要因として、ミスマッチがある。スケジュール面でのミスマッチやソースクライアントからのトライアルに落ちてしまうこともある。また、分野違いの仕事の場合や、報酬・スキルのミスマッチがある。このような質的なミスマッチをそのままにすると、品質の低下を招き、翻訳の価値を下げることになる。

新しいトライアル

類似した分野を扱っている翻訳会社(3~5社)が連合してトライアルを共同作成し、実施結果を共有するシステムを作成する「T(Trial)クラスター」を提案したい。各社持ち回りでトライアルを作成することにより、作成工数の低減を図ることができる他、内容を意味あるものに絞りこむこともできる。トライアル実施後は、翻訳会社同士で実施結果を共有し、翻訳者も同一クラスター内の翻訳会社を移動できるようにする。合格履歴だけでなく不合格の履歴も併せてわかるようにできると良いだろう。

現在のトライアルは「落とす」だけのトライアルである。「引き上げる」ためのシステムを組み込むために、翻訳会社は何が求められているかのアピールを行い、人材を引き上げる視点を持つことが大切である。このようなシステムを作れば、人材供給システムとして、需要に柔軟に対応ができるだろう。なお、システムは自立分散型の運営を行って、本質的には無償で使用できることが望ましい。

全ては翻訳業界進化のためである。

報告者：長田 裕之

(株)アメリカ・ネットワーク

最高のバージョンを、お届けします。

ベストバージョンは、翻訳およびそれに関連するすべての作業において、常に最高の品質をお届けすることを目指しています。

Translation

Editing

Planning/Design

BEST VERSION

株式会社 ベストバージョン

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-10-5-203  
 TEL: 03-5395-4721 FAX: 03-5395-4725  
<http://www.bestversion.co.jp>  
 Email: [bv@bestversion.co.jp](mailto:bv@bestversion.co.jp)

## 翻訳支援ツール委員会レポート

委員長、JTF 理事 久徳 省三

JTF翻訳支援ツール委員会では、会員の皆さんに最新支援ツールをご紹介するために、年に三回をメドに翻訳支援ツール説明会を主催しております。平成15年度は、12月11日にLogoVista、平成16年2月17日にSDLXの説明会を開催しました。知財翻訳研究所さんが会場を無償提供してくださるので、入場無料です。

お客様から支給される和文原稿も例外ではありませんが、現在世の中に出まわっている日本語には整合性に欠けるものが豊富にあります。同一文書を、納期の関係で複数の翻訳者が翻訳する場合、訳語や表記の整合性を期待することは困難です。

翻訳料金を頂戴して行う和訳文がこのような状態では、業界の地位の評価は低下すると思われるので、当委員会では約一年半かけて和文推敲用データベースを作成しました。

### 翻訳の環境変化

コンピュータは、かねてから翻訳者にとって不気味な存在でした。1984年5月18日の朝日新聞のトップに「自動翻訳機売り出す」という記事が紹介されたときは、自動翻訳が翻訳者の仕事を奪うかと懸念されたものでした。幸いにしてそのような事態にはなりませんでしたが、コンピュータは着実に翻訳の仕事に影響を及ぼしています。

1990年代にワープロが急速に普及した結果、ワープロが使えない機械音痴の翻訳者は仕事を奪われました。

情報産業の進化は恐るべきものです。犬猫の言葉を理解する装置や、人間の赤ん坊の泣き声を理解する装置が商品化された21世紀初頭は第二の翻訳環境変化時代と考えられます。

### 翻訳需要の変化

パソコンの処理速度の高速化や記憶媒体の肥大化とブロードバンドの普及は、翻訳需要に大きな変化をもたらしています。クライアントから支給される翻訳原稿も、数年前までは紙に印刷したものでしたが、最近は電子ファイルが増えています。クライアントがパソコンを使用してドキュメントを作成していますから当

然でしょう。

その結果、翻訳会社も翻訳者も従来必要でなかったソフトウェアの操作が要求されることになりました。例えばpdf形式の翻訳、PowerPoint形式の翻訳、jpeg形式やbmp形式のデータを埋め込んだMS Word形式の原稿の翻訳が要求されています。

### クライアント要望の変化

ここで対象とする翻訳需要は、産業翻訳と呼ばれていた、文芸翻訳や映画の字幕翻訳、新聞記事や証券・金融関連文書の翻訳などを除く分野の翻訳です。これらの翻訳成果物に要求される条件は、文書の分野や目的により一概に断定できません。従来品質重視の論文や印刷物用の翻訳もありますが、大量文書を短納期で安い料金で翻訳してほしいという需要が増えているようです。

当然、翻訳者には過大な労力が要求されます。また、大量文書を短納期で翻訳するには一人の翻訳者では物理的に不可能なので、翻訳会社は同一文書を複数の翻訳者に依頼することは避けられません。

翻訳作業を人間が行う作業とパソコンができる作業に分けて、パソコンができることはパソコンにやらせることが必要となります。その場合、翻訳支援ツールは欠かせないソフトウェアです。

### 翻訳支援ツールの現況

日本翻訳ジャーナルの2001年3/4月号5/6号でご紹介したとおり、翻訳支援ツールには機械翻訳(MT)、翻訳メモリ(TM)、その両者を備えたもの(MT+TM)があります。翻訳メモリ機能のソフトウェアを提供なさっているメーカーさんが増えた以外、大きな変化はありません。

最近では翻訳メモリ(TM)機能の支援ツールはCAT(Computer Aided Translation)ツールと呼ばれているそうです。

以後CATツールと呼びます。

その記事を書いたときは使用していませんでしたが、[訳語付与]と[用語確認]機能を備えたSuperHT<sup>3</sup>は、時代の要求にマッチした支援ツールです。

一方、従来CATツールの使用を条件にする案件の大半はITローカライゼーション分野だったのが、最近は例えば自動車など、他の分野でも使用されはじめています。

米国企業のウェブサイトのローカリ

ゼーションが本格化すると、米国企業は翻訳メモリや用語集の管理が得意なので、CATツールの使用が要求されることが予想されます。

### 和文推敲用データベース

JTF翻訳支援ツール委員会では、貝島良太さん(JTF個人会員、JTF翻訳支援ツール委員、十文字学園講師)が日立国際ビジネス社に在職中に開発したSuperHT<sup>3</sup>をビューアとした和文推敲用データベースを作成しました。

翻訳業界でお馴染みの「文章・用字用語ハンドブック」の姉妹編「説得できる文章・表現200の鉄則」の「付録3 漢字と仮名の使い分け」をベースに作成したデータベースでSuperHT<sup>3</sup>で和文の表記をチェックする支援ツールです。同書の著者である永山嘉昭さんに監修していただきました。

このデータベースが完成したらJTFのウェブページに公開して業界の皆さんにご利用いただく予定でした。

残念ながら、JTF理事会で審議の結果、JTFが特定ソフトウェアを使用しなければならぬデータを提供することは好ましくないとの理由で、JTFのウェブページでは公開しないことになりました。

SuperHT<sup>3</sup>は日米の特許を取得したソフトウェアで、所有者の貝島さんは、現在この特許権を許諾しない意向ですから、他の支援ツールのように類似品はありません。

したがって、以下の貝島良太さんの「アトリエワン」のウェブに公開致します。

<http://www.bow-wow.jp/sh3/>

### データベース作成の動機

私はSuperHT<sup>3</sup>を使用する前は、和訳の仕事は納品前の最終推敲をする際に、「通り」や「及び」など自分が間違えやすい表記を約50個エディタの[検索]を使用してチェックしていました。

SuperHT<sup>3</sup>を使用しはじめて、このソフトが持つ[用語確認]機能でこれを代行できないか試しました。約六万字の和訳文をチェックするのに[検索]では少なくとも一時間はかかったのが、SuperHT<sup>3</sup>ではわずか6分でできました。

翻訳者が訳文を推敲するときは、大概納期寸前で、納期に間に合わせるために睡眠不足が続いたときに行います。

通常の場合でも、他人が書いた文章の間違いはすぐ分かりますが、自分が書いた文章の間違いは何回読み直しても分か

りません。馬鹿正直なパソコンがやってくれば一発で分かります。

しかも、このソフトの場合は間違いのおそれがある表記を指摘してくれるだけで、ソフトが勝手に直すことはありません。あくまでも訂正はユーザーが行います。

#### 和文推敲用データベースの効果

SuperHT<sup>3</sup> を起動し、Word などと同様に [ファイル] [ファイルを開く] で推敲する文書を読み込みます。

画面の上半分に推敲する文書が表示されます。

ツールバーに [辞書変更] というボタンがあるので、和訳推敲用データベースのファイル名を指定します。

あとはツールバーの [用語確認] ボタンをクリックすると、SuperHT<sup>3</sup> は自動的にチェックを行います。

推敲が終わると、画面上半分に表示された文書の中に表記が間違っているおそれがある箇所の色が赤系統の色で表示されます。

画面の下半分には、間違っているおそれがある表記を含め、一覧表示されます。間違い用語の右には [選択候補] として修正候補が表示されます。

一覧表中の [解説表示] ボタンをクリックすると、その用語の解説が表示されます。

例えば、赤で表示された「はじめて」の [解説表示] ボタンをクリックすると、『【副】 初めて × はじめて』の解説が表示され、「はじめて」を副詞で使用する場合は漢字で書くのが正しいことを指摘します。

「いちがいに」が赤で表示された場合は [解説表示] ボタンをクリックすると『【副】

一概に × いちがいに』と漢字表記が正しいことを指摘します。

「という」の場合は『【動】 言う × いう [例] 言うまでもなく、言うことを聞く。はっきり言って【連】 いう × 言う [例]

そういう人、そういえば、なんということだ』と詳しい解説が表示されます。

「及び」は『【接】 および × 及び (注) 法律名は「及び」【動】 及ぶ × およぶ』と、接続詞と動詞の違いで漢字がひらがなが違うことが解説されています。

ツールバーの [詳細] をクリックすると、指摘された表記の前と後の表記が表示されますから、その表記は接続詞として使用したのか、あるいは動詞として使用したのかどうかはすぐ分かります。

#### 和文推敲用データベースの内容

これら、間違いやすい表記の例の大半は前術の「読得できる文章・表現200の鉄則」の「付録3 漢字と仮名の使い分け」をベースにしたもので、全部で619件あります。

すべて当委員会が各種辞書で確認し、不必要な指摘が最小限になるように修正してあります。

これらをすべて記憶している和訳翻訳者は、世界広しといえどもまづいないと思います。

#### SuperHT<sup>3</sup> の主な機能

SuperHT<sup>3</sup> は、通常用語集は原語と訳語が対になっているのに対し、複数の原語に複数の訳語を指定できるユニークなツールです。

翻訳に使用する際は、[訳語付与] と、[用語確認] 機能が威力を発揮します。

その詳細は、前述のアトリエ・ワンのウェブサイトをご参照ください。

この SuperHT<sup>3</sup> は日本規格協会が発売した「JIS 工業用語大辞典 [第5版対応] CD-ROM」にバンドルされているので、お持ちの方も多いかと思えます。

ユーザ辞書の作成が面倒で使用していないケースが多いようですが、この和文推敲用データベースは SuperHT<sup>3</sup> のユー

ザ辞書になっているので、ダウンロードすればすぐ使用できます。

アトリエ・ワンのウェブサイトには、この他にも多くの用途別ユーザ辞書が提供されています。

#### SuperHT<sup>3</sup> の斡旋販売

この和文推敲用データベースの完成を記念して、アトリエ・ワンでは JTF 会員を対象に、通常 38,000 円を 26,600 円 (プラス消費税) で SuperHT<sup>3</sup> の特価販売を行います。

期間は 2004 年 5 月 10 日までで、会員資格は法人、個人、賛助会員のいずれにも適用されます。

アトリエ・ワンのウェブサイトからお申し込みください。

#### 意外な支援ツールの効果

翻訳支援ツールを使用して翻訳の仕事をする、本来の効果とは別に意外な効果もあります。

私は、少なくとも二カ月に一度は原稿の間違いを発見し、訳文を納品する際に訳注で指摘して、お客様からお褒めいただいています。

翻訳メモリーを使用してファジーマッチで検索すると、表記の不整合はもとより、数字の誤りまで分かります。人間の記憶力が、いかにあてにならないかが、よく分かります。

翻訳者仲間の会合のときなど、翻訳支援ツールの使用状況をお聞きすると、現在の使用状況は芳しくありません。

発注者側に経済的メリットがあるので、CAT ツールの使用を条件とする仕事は今後増えると思われます。

需要変化を認識して、ワープロが使えないため仕事を奪われた翻訳者の轍を踏まないようにしましょう。

## High quality New standards in translation Prompt service

取扱言語 英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語 等(その他言語にも対応しております)  
 取扱分野 特許・工業・医薬・金融  
 取扱内容 翻訳・メディカルライティング・ネイティブチェック・通訳・印刷・テープ起こし 等



**HONYAKU**  
**CENTER**  
 New Standards in Translation

since 1986  
 株式会社翻訳センター

大阪営業部 〒541-0046 大阪市中央区平野町2-5-8 平野町センチュリービル9F tel:06-6202-3287 fax:06-6204-0608 osaka-g@honyakuctr.co.jp  
 東京営業部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-10 虎ノ門15森ビル3F tel:03-3502-1921 fax:03-3502-3521 tra-g@honyakuctr.co.jp  
 日本橋営業部 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-2-13 アドバンテック日本橋ビル1F tel:03-3242-3831 fax:03-3242-3835 nbo@honyakuctr.co.jp  
 名古屋営業部 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-12-12 竹生ビル2F tel:052-571-2101 fax:052-571-2103 nagoya@honyakuctr.co.jp

翻訳者を募集しております。

[www.honyakuctr.com](http://www.honyakuctr.com)

詳しくはウェブサイトをご覧ください。

## PR 関連翻訳をニッチとして

有限会社ディジタイズドインフォメーション 代表取締役

月岡 章仁

当社(有限会社ディジタイズド インフォメーション)はオフィススタッフ5人(パート含む、全員日本人)、外部翻訳者20人前後(日本人、英語ネイティブ)を抱えている。設立は1986年。翻訳業務のほとんどは外部翻訳者に委託し、オフィススタッフはコーディネーションとチェックを担当している。

翻訳といってもいろいろな種類があるわけだが、当社は英日/日英に特化しPR関連の翻訳を専門としている。クライアントの大部分はPR会社と企業広報部門である。直接、間接のクライアントはほとんど外資系で、米国系が9割前後。日本企業の広報部門と違い、外資系は翻訳が必ず必要で、細かい翻訳ニーズが常に存在する。実際、外資系企業をクライアントに持つPR会社や外資系企業広報部にとって翻訳業務は仕事の一部であり、クライアントの中にも英語ができる人が多い。しかし、英語が堪能でも、翻訳ができるレベルには必ずしもなかつたり、翻訳以外の業務を担当していたりで、実際に翻訳に携われる人はあまり多くないようだ。

PR会社スタッフは、企業広報部より翻訳に携わる人が多いが、やはり翻訳以外で忙しく、常に、自分達がPR活動に専念できる時間を作り出してくれる翻訳者/会社を求めている。PRは広告と違い、一般にはあまりなじみがなく目立たない業務だが、PRにかかわっている人は忙しい人が多い。地味だが、Time is moneyの世界である。

当社が扱う PR 関連の翻訳は、プレスリリースや新聞/雑誌/オンライン記事、スピーチ/レター原稿、プレゼン資料、テープ起こしなどである。

PR関連翻訳で重要なことは「スピード」。PR案件は長くない。しかし、クライアントの「今欲しい」というニーズに応えなければならぬ。プレスリリースを例に取ると、英

訳ではオリジナルの日本語が一応完成した段階で翻訳のリクエストが入ってくる。オリジナルはプレス発表に間に合わせるべく、ユーズ企業とPR会社間、あるいは企業の広報部と担当部署間で最後の最後まで調整されて上がってくるので、いつ表に出してもよいものであり、英訳版も同時発表とするのが理想である。和訳では、海外で発表されたものを日本のメディア向けに配信する目的等で翻訳する。いずれにせよプレスリリースの翻訳依頼のほとんどが「当日希望」である。朝一にオリジナルが添付されたメールでリクエストが入り、「午前中納品希望」や「午後の早い時間で」などとさりげなく書かれている。あるいは、夜の7~9時の時間帯にやはりメールで「明日朝一でお願い」などのリクエストがくることも多い。新聞/雑誌/オンライン記事の翻訳はFAXでリクエストを送ってくるだけのところが以前は多かったが、最近はメールで送信確認を入れてくる。

当社の仕事の流れは、クライアントからの依頼、当社から翻訳者への依頼、翻訳者からの納品、チェック、クライアントへの納品、となる。極めてtime-sensitiveなクライアントでは、クライアントから直接翻訳者に原稿が送られ、翻訳者も直接クライアントに翻訳を送ることもある。プレスリリースでは、与えられる時間は短くて2時間、長くて(業績発表等)5~6時間が多い。その他のタイプのPR関連翻訳も基本は「今欲しい」である。以前、新聞記事をモニタリングしているPR会社から英訳案件で記事10件前後、最終英文で7,000wordsほどの仕事を4時間でやってくれとの依頼が来たが、担当者は英訳を受け取った時本心に「ほっと」した様子であった。英語で7,000語ほどの仕事になるとネイティブ4人くらいに仕事を依頼しないと行けない。同じような内容の記事が続くモニタリ

ング翻訳では若干翻訳ペースが上がるが、それでも600語/時間で英訳できるレベルにないとお願ひできない。英日のリリースもスピードがとにかく「カギ」である。最低でも原稿用紙3枚/時間でやれないとPR絡みの和訳は無理だろう。実際にはそのスピードでも駄目な場合が多々ある。

スピードだけでなく、質の要求も極めて高い。PR会社/企業広報のクライアントは彼等が翻訳に費やす時間を短縮するために外部に発注するのだから、「質」でブレーキをかけると次の依頼を期待することが難しくなる。当社の場合、PR翻訳という若干ニッチな部分で、幸いにも優秀な英訳/和訳の翻訳者と一緒に仕事をやれていることが「今欲しい」というクライアントのニーズを満たしてきたもっとも大きな理由である。当社は極めて高い「質」を期待できる翻訳者にお願ひし、それにより、チェックの時間を最短化し短納期を実現することでクライアントの満足度を高めている。

「スピード」「質」と同等に重要なのがAvailabilityだ。翻訳が必要な時はいつもavailableという体制がクライアント維持に大きく物を言っている。当社の仕事パターンをある程度理解してしてくれる翻訳者がほとんどなので、基本的に翻訳者にあまり無理な依頼はしないようにしている。当社の翻訳依頼のスタンスは「時間があればお願ひしたい」である。逆に無理なときは、積極的に「No」と言ってくれるようお願いしている。

当社が考えるにPR関連翻訳では「スピード」「質」「Availability」が鍵である。営業面では、やはり会社/グループ組織にし、クライアントの依頼を会社/グループとして常に受け付けられるようにしておかないとPR関係の翻訳業務をコンスタントに引き受けることは極めて難しいといえる。

## お待たせしました

トランスマートは翻訳会社様向けに新しいサービスを開始いたします。  
優秀な人的リソースの共有を目標にサービスを開始してから3年。  
翻訳文の一次品質がプロジェクト全体のコストを大きく左右するプロの現場にも自信を持ってご紹介できる優秀な翻訳者が集まりました。

<http://www.trans-mart.net/transagt/index.html>



トランスマート株式会社  
株式会社ヒューコムは  
トランスマート株式会社  
に社名を変更しました。

〒160-0022  
東京都新宿区新宿1-13-11 シブヤビル2F  
03-5363-0370  
info@trans-mart.net

## News

## Windows 98/Meのサポート延長

Windows 98およびMEについては、「延長フェーズ」のサポートが、それぞれ本年の1月16日および12月31日に終了する予定であったが、いずれも2006年6月30日まで延長された。またWebでのサポート技術情報の提供やWindows Updateなどでの修正プログラム提供も、2007年6月30日まで継続される。また、マイクロソフトでは、今後も、悪質なコンピュータウイルスが現れた場合には、修正プログラムを提供するとしている。

## 確定申告をインターネットで

政府が推進するe-Japan構想の一環として、電子申告・納税システム「e-TAX」が2月2日に始動した。これにより、確定申告・納税の手続きをインターネット経由で行えるようになる。ただし、今回の利用開始は名古屋国税局管内の納税者のみが対象となっている（全国運用は6月から）。また、開始届出書の提出、利用者識別番号や申告用ソフトの入手、住民基本台帳カードへの電子証明の組み込み、同カードの読取り機の購入など、様々な手続きや出費が必要となるため、現時点では必ずしも期待されているほど便利ではないかもしれない。

## gooでGoogle

人気の検索サイトと言えばなんといってもGoogle（www.google.co.jp）であるが、実際にはYahoo! JAPAN、goo、excite、@nifty、BIGLOBE、So-net、OCN、infoseekなど多数の主要検索サイトが

Google エンジンを使用しており、これらのサイトであればどこで検索しても同じ結果が出る。このような状況の中、goo（www.goo.ne.jp）では、昨年12月より、Google エンジンに新しい機能を付け加えた検索サービスを開始している。これからは「gooでGoogle」か。新機能は、(1)例えば「年賀葉書」を入力した際に「年賀はがき」や「年賀八ガキ」も同一語として検索が行われる「表記ゆれの自動補正」機能。(2)誤表記や略語を入力した際に正しい表記で検索が行われる「正しい表記のキーワード推薦」機能。(3)入力した検索文字列と関連性の高い語を表示する「関連キーワード表示」機能。(4)子供が使用する際に有害と思われるWebサイトを表示させない「アダルトフィルター」機能。

## 翻訳支援ソフトの新版、各社から発売

翻訳支援ソフトのバージョンアップが相次いでいる。10万円前後の高級品は、いずれも翻訳メモリと大型の専門用語辞書を搭載している。

LogoVista X PRO Ver.3.3 [英×日]

販売元：ロゴヴィスタ（株）

翻訳メモリ機能と計360万語の翻訳を標準搭載する日英・英日翻訳ソフト（定価80,000円）。オプションの専門辞書を追加したフルパック版（定価105,000円）もある。専門辞書は、南山堂の「医学和英大辞典」、日外アソシエーツの「科学技術」、「ビジネス・法律」などをベースにして作成されている。「ロボワード for LogoVista X PRO」、「リーダーズ英和辞典 第2版」のほか、OCRソフトなども同梱されている。

「PC-TranSer V11 for Windows」  
販売元：（株）クロスランゲージ  
翻訳メモリ機能付きとしては比較的低価格の日英・英日翻訳ソフト。定価は、搭載する辞書（ビジネス7分野、科学技術16分野、医学）の種類によって45,715円～93,334円。翻訳結果に基づいて最大100万例までの対訳データベースが作成される。文書の内容に応じた専門用語辞書を自動選択する機能を持っている。特許用（248,000円）もある。

「The 翻訳プロフェッショナル9.0」  
販売元：東芝ソリューション（株）  
翻訳メモリ機能に加えて、翻訳したい文書（英日翻訳の場合には英文）と同じ分野の文書（日本語文）を登録しておく、登録文書の中から適切な訳語を選択してくれる「セレクトコーパス翻訳機能」を搭載している。価格は通常版が85,000円、専門用語辞書とのセットのパッケージが123,000円など。

「ATLAS V10」  
販売元：富士通ミドルウェア（株）  
この製品（日英 or 英日、日英 & 英日、付属辞書の種類などによって定価58,000円～128,000円）の発売は昨年夏だが、専門辞書付きのスーパーパックは25分野合計432万語の辞書を搭載しており、根強い人気を保っている。

（野上 員生）

www.to-in.co.jp

翻訳者・チェッカ募集中。  
上記URLからご応募ください。

TOIN 株式会社 十印

〒105-0014 東京都港区芝1-12-8 十印ビル  
Phone: 03-3455-8711 / Fax: 03-3455-8957

翻訳・通訳のスペシャリストを派遣します。

翻訳・通訳・テクニカルライター・  
プロジェクトマネージャ・バイリンガルセクレタリなど

www.toin-hf.com

登録随時受付中

TOIN 株式会社 十印ヒューマンフロンティア  
HumanFrontier

〒105-0014 東京都港区芝1-12-8 十印ビル  
Phone: 03-3455-8861 / Fax: 03-3455-8863  
一般労働者派遣業（股13-04-0647）/ 有料職業紹介業（13-04-ユ-0518）



## 法人会員プロフィール

### 株式会社 パトリス

〒135-0043  
東京都江東区塩浜2-4-9住友不動産木場ビル  
TEL: 03-5690-5573  
FAX: 03-5690-3504  
<http://www.patolis.co.jp>

#### 特許翻訳のフルラインサービス

当社は、前身である財団法人日本特許情報機構(JAPIO)時代から、30年の長きに亘り高品質の特許情報を提供する一方で、そのノウハウを活かした精度の高い翻訳サービスを提供しております。

2001年の株式会社設立後には、図書館情報大学(現筑波大学)石川研究室(株)クロスランゲージとの共同で多言語翻訳エンジン「PATOLIS-PRIME」の開発を続け、2002年10月には世界初の多言語検索・機械翻訳特許情報データベースをリリースいたしました。その後も、機械翻訳を活用し、短納期と低コストを両立した「スピーディ翻訳」PATOLIS-PRIMEの翻訳機能をパッケージソフトにした「PATOLIS-Transer」など、人手による翻訳から機械翻訳ソフトまで、特許翻訳のフルラインサービスを展開しております。

#### 多様な翻訳ニーズに対応

一口に特許の現場といっても様々な状況に応じた翻訳が求められております。例えば、海外での他社の技術動向を調べるため、大量の特許文献を分類するような業務が発生します。そのような場合、翻訳はあくまでも技術内容を把握するため

の手助けに過ぎませんので、どちらかと言えば精度の高い翻訳は求められておりません。

その一方、特許出願(申請)や、特許の有効性を判断するための資料等の翻訳では、一字一句が最終的には権利の得喪に影響を及ぼすことから、精度の高い翻訳が求められます。

このように、お客様の細かなニーズに対応するため、当社では、翻訳の内容、処理の速さ、コストを考慮した多様な翻訳サービスを提供するに至りました。

#### 新世代の翻訳サービス

従来型の専門翻訳者の人手による翻訳に加え、至急で翻訳を必要とするご要望にお応えするため、専門翻訳者が機械翻訳をツールとして用いる迅速かつ低価格の翻訳サービスを開始いたしました。この翻訳処理にあたっては、国内外の特許から抽出、蓄積した対訳例文データベースや、特許文献を検索するための技術用語であるキーワード等の翻訳資産を活用致します。

「スピーディ翻訳」とは、特許翻訳に特化した最新の機械翻訳エンジンと、当社の特許翻訳資産、そして専門翻訳者の統合による英日・日英特許文献の迅速・低価格なサービスです。特許翻訳専任オペレーターが、機械翻訳の対象となる原文を機械翻訳しやすい状態に編集し、その後、技術に精通した専門翻訳者が文章を精査、自然な翻訳文に整え、最終翻訳として仕上げます。

「コンプリート翻訳」とは、専門翻訳者により、「スピーディ翻訳」の翻訳結果を、

さらに時間をかけて精査し、より訳質を高めたサービスです。処理の工程は人手による翻訳と変わりありませんので、お客様より予めご指定頂いた技術用語、表現の指定にも対応可能です。

#### 強力な翻訳ツール「PATOLIS-Transer」

2003年の10月より、翻訳ソフトで定評のあるクロスランゲージ社と共同開発した特許専用の英日・日英翻訳ソフト「PATOLIS-Transer」を販売しております。

この翻訳ソフトは、22分野206万語の充実した技術用語をサポートしており、さらに当社特許情報データベースの検索語から抽出された5万語の「パトリス辞書」を搭載することで、特許明細書に頻出する実務的な技術用語をカバーしております。もちろん、機械翻訳は、人間の翻訳には到底かないませんが、下訳や、大量の文献を斜め読みするには十分なレベルまで達しているとの評価を得ております。

#### お客様の立場に立ったサービス

弊社は、経験豊かで高い専門性をもつ強力なスタッフを揃えております。「顧客第一、創意無限」の経営理念に立ち、皆様のご要望にフレキシブルに対応し、翻訳サービスを通じてお客様の特許戦略づくりに魅力あるご提案ができるものと考えています。株式会社パトリスを今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 株式会社 パトリス

〒135-0043 東京都江東区塩浜2-4-9住友不動産木場ビル TEL: 03-5690-5573 FAX: 03-5690-3504  
<http://www.patolis.co.jp>

#### 《 翻訳者募集情報 》

募集分野： 機械、電気、化学、医薬、バイオ等

募集言語： 英語、仏語、独語、中国語、韓国語

募集時期： 随時

応募条件： 特定の技術に精通しており、特許翻訳についての知識または経験のある方

応募方法： 電子メールにて履歴書、職務経歴書を送付

応募宛先： E-mail [honyaku@patolis.co.jp](mailto:honyaku@patolis.co.jp)